

平成28年3月29日

県民意見の重要意見と分析結果報告書

コミュニケーションチーム
チームリーダー 坂井 マスミ

今年度コミュニケーションチームでは、平成24年度以降に県民会議が開催した県民フォーラムと、リーフレットの後ろに貼付したアンケートはがきにより収集した県民からの意見についての分類・整理、及び分析を行いました。

水源環境保全税を活用した県の取組みに対しては、肯定的な意見や激励も多く寄せられているのですが、コミュニケーションチームではあえてそれ以外の、今後の検討にあたって重要であると考えられる意見を選択し、解説と意見をつけて報告書にまとめました。

結果につきましては、時代の変化や地域の事情などを踏まえた建設的な提案も多く、県民参加の意義を実感させるものとなっており、県の関係各部署はもとより、各専門委員会及びチームにおいてご活用いただける有意義なものとお信じております。

よろしくご活用くださいますようお願い申し上げます。

〔1〕 分析にあたって 一経緯と方法

1. 実施の理由

- (1) フォーラムのアンケート意見は、県の回答がホームページに掲載されるまでに1年超の時間を要していた。それが県民会議の委員の任期を跨いでしまうこともあり、その 内容を体系的に整理して議論したり分析したりしたことがなかった。
- (2) これまでの県民意見への対応は、ホームページでの一問一答 であって、それらを内容によって一応の分類はされていたが、仕分けや集計がなされたことはなかった。
- (3) 平成19年の超過課税開始から 9年が経過した 段階では、単に事業への意見を集めるだけでなく、その意見が反映実施されているか、あるいは問題が解決されているかなどを検証する必要がある。

2. 対象となる意見 (972件)

- (1) 平成24年度以降に開催されたフォーラム、もり・みずカフェのアンケートの意見
- (2) 県民会議が行うフォーラムやもり・みずカフェにおいて配布する、コミュニケーションチーム制作のリーフレットにつけたアンケートはがきの意見
 - ①「森は水のふるさと」(平成24年度制作)
 - ②「支えよう！かながわの森と水」(平成25年度制作)
- (3) 上記(2)のリーフレットは、市町村や一般の団体が主催するイベントや講習、大学を含む教育機関での研修や、事業者向けの見学会でも活用されるようになっており、その際に配布・記入され返信されたアンケートはがきの意見

3. コミュニケーションチームが行った作業

- (1) チームで、県民フォーラムやイベントへの参加の感想や、水源環境保全・再生施策とは明らかに関連しないと思われる意見を対象から外した。(691件)
- (2) その上で、下記〔2〕のように意見を分類した。
- (3) そこからメンバー各人が、意義のある意見と、残しておきたい意見を15～20選択した。
- (4) そこから更に、支持される意見と重要と思われる意見に整理し直した。(81件)
- (5) 共通する内容を整理し見出しをつけ、回答した場や事情を踏まえたコミュニケーションチーム意見を加えた。

〔2〕意見の分類とその分析 —10項目に分類

別途意見リストに詳細を示す通り、意見を10の項目に分類した。さらに、各項目について、内容がまとめられる意見については細分類にしてまとめた。各分類項目の意見内容について、コミュニケーションチームの意見を記載した。

1. 施策のあり方 (17件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 ページ
 - (1) 施策に対して経済的な視野と長期的な視点を求める意見
 - (2) 県民と現場の目線が不足していることを指摘する意見
 - (3) 超過課税の有効活用を望む意見
 - (4) 優先順位の検証を求める意見
 - (5) 広く源流部を訪れて河川の変化に敏感な県民や釣り人の情報や意見の活用を求める意見
 - (6) 財源の少ない他県の知恵に学ぶことを求める意見
 - (7) 長期的な担い手対策を求める意見
2. 森林整備 (2件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 ページ
超過課税のあるうちに混交林化すべき森林の計画を求める意見
3. 林業 (6件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 ページ
森林を維持する上で木材と森林資源の利用拡大が不可欠という意見
4. 獣害対策 (4件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 ページ
 - (1) 命を奪うための狩猟に対する不信感を表現した意見
 - (2) 獣害の現状をもっと知らせてほしいという意見
5. 生活排水対策 (4件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11 ページ
県民の生活排水問題への意識向上を進めてほしいという意見
6. 子どもへの教育 (13件)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 ページ
 - (1) 都市部の子どもへの水道水の仕組みを伝える授業に活用したいという意見
 - (2) 子どもたちに現地を見せて教えることを求める意見
 - (3) 高等教育への応用を求める意見

7. 施策の PR (19 件)	14 ページ
(1) パンフレットの配布方法について	
(2) PRにわかりやすさを求める意見	
(3) 水道水について啓発していくことを求める意見	
(4) フォーラムに県の理念や事業の具体的説明を求める意見	
(5) フォーラムに広い分野からの参加者を求める意見	
8. 災害 (1 件)	17 ページ
9. 地域理解 (4 件)	17 ページ
10. その他、参考意見 (11 件)	18 ページ

〔3〕分析結果・まとめ ー 県民の求めることをどう受け止め、実現するか

1. 今回の分析結果には、より誠実なご対応をお願いしたい。

- (1) 税導入直後のような関心度の高さや話題性は薄れている。そういう意味でもこのアンケートにご参加くださった方々には、既に一定程度のご理解があると考えられ、そのご意見を施策に反映させる意義が大きい。
- (2) 意見を寄せてくださる方は、税についてよくご存知でなくても、ある程度は森林や河川に関心を持って生活されている方が多いと思われる。
- (3) アンケートには厳しいご意見やご提案が寄せられているのも事実であり、水源環境税による事業が何もかもうまくいっているとも思えない。フォーラムに関心を持ち、日程を合わせてご出席くださった方々のご要望であれば、より一層のことである。

2. 施策に直結する意見への対応

- (1) フォーラムが県民意見の集約を目的として行われる以上、その事後対応は、県民からの建設的な意見は尊重し、県と委員が議論・検証し、実施に移していく責任がある。
- (2) 超過課税である水源環境保全税は、より厳しい点検を求められる。

3. 県民への説明や交流に関する意見への対応

- (1) 9 年が経過した今、総花的な報告ではなく、現場では何がよくて何に困っているか、実状を具体的に伝える報告が必要とされている。
- (2) 現場にいる県民の意見を吸い上げ、活用する仕組みが不足している。
- (3) 他県の状況や外部からの評価に照らしてどうなのか、長期的には誰がどのように担っていくのかという本質的な問いに対しての、謙虚な議論と回答が必要と考える。

4. 県民意見から求められていること

- (1) 平成 37 年には団塊世代が 75 歳以上になり、5 人に 1 人が 75 歳以上となる。県民は、長期的な展望と方針、平成 39 年度以降の責任を明らかにすることを望んでいる。
- (2) 県民は、成果の検証を「水源涵養機能」という単眼的な評価だけでなく、現在一般会計で行われている林業政策についても見直しを望んでいる。

- ① 森林資源を使った循環型で持続可能性の高い林業の再生
 - ② 木材の流通加工プロセスの見直しによる地域再生
 - ③ 長期的な森林の価値の最大化方策の実施
- (3) 県民は、水や森林について自ら学び、参加し、実践を通じて責任を果たしたいという気持ちも持っている。そこに県民として、ボランティアや納税のような一面的なことだけでなく、本質的な解決のために何ができるかということへの関心も持っている。
- ① 生活排水
 - ② 地域材の普及と活用（実現には移動コスト削減と製材所の存続が不可欠）
 - ③ 都市住民としての貢献

5. 県へのご提案

- (1) 次期5か年計画の検討に役立てるための場を設けること
- ① 計画策定経緯を説明する場、意見交換する場
 - ② 個別事業の内容を委員とともに検討する場
 - ③ 現場からの意見を聞いて理解を深める場
 - ④ 他県の制度を知り、そこから事業をあらためて見直す場
 - ⑤ 最近の動向と将来の展望について意見交換する場
- (2) 本来事業である一般財源で行う取組みとの調整
- (3) それらをホームページ上で県民に報告
- (4) 水循環を基本とした流域スケールでの効果検証と県民へのさらなる情報提供

6. 県民会議へのご提案

- (1) 各専門委員会・チームでの活用
- (2) 超過課税だからこそ、県民に広く意見を求めより厳しい検証を働きかけること。
- (3) 県民への説明に必要な現場の情報の収集や、県民の意見を反映したより実践的で課題解決に資するモニターを行うこと。
- (4) 今後とも県民意見の分析を怠らないこと
- (5) 課題解決を意識した意見の収集のための手法を更に磨くこと

7. 最後に ー 県民との共感、ご意見から読み取る時代の変化

大綱からの10年、時代は大きく動きました。国際情勢の不安定化や国境を超えた企業買収、経済のマイナス成長などの影響は、若年層の貧困と非正規雇用の拡大など、日本社会に広く及んでいます。東日本大震災を機に生き方を見つめ直す人が増え、田園回帰の流れが地方創生へと繋がりました。同時に各地で林業を新たに見直す動きも始まりました。一方で水源と呼ばれる地域では人口減少には歯止めがかからず、神奈川県でも今年から、移住情報発信フェアなど、人口減少に向けた対策が始まりました。

県民の皆さんのご意見には、そうした時代の変化を感じ、県の将来を思う気持ちが込められていると思います。頂戴したひとつひとつのご意見にある背景を頭に描き、時代の変化と認識を県民と共有する過程で、本報告書は役に立つことと思います。

以上

1. 施策のあり方

☆：委員3名以上
が選択した意見

(1) 施策に対して経済的な視野と長期的な視点を求める意見

記載内容	収集元	属性	
1 現在の原木価格では木材を生産することは非常に難しい。森林が荒廃することは自然環境が短期間に悪化することになる。山が荒れれば、源流からの水が変化し、山崩れ、大水、沿岸地帯の海の水質悪化、水産資源に悪影響と、悪化のサイクルがますます大きくなり、飲料水までおかしくなる。悪化が進むと簡単には状況の改善が不可能になる。河畔林の確保、天然林と人工林のバランス、すべての出発点は原木価格が出発点であり、行政支出の使用面での考え方を变える必要がある。	第27回県民フォーラム (藤沢市) H28. 1. 16	男性 70代 藤沢市	☆
2 森は「生命の水」の受け皿です。森の保全・再生なしに全ての生態系は絶滅です。森林資源の良き経済性を創出し、森に経済(お金)が循環するシステムを作らねば、持続性ある森林経営又は良き森林の保全・再生は出来ません。北 欧・中欧の先進的森林経営を学ぶべきと思います。森林率68%と云う世界第2位の森林資源(宝物)を生かす方法を考えて下さい。年間約40億円×5年(一期)×4期(20年)=約800億円と云う投資する神奈川県の水源地政策の責任は重大です。	第22回県民フォーラム (小田原市) H26. 8. 2	男性 70代～ 県外	☆
3 間伐材を山中から下ろして(自然災害を大きくするリスク対策)、活用する仕組み作りを考案する取組みにも税を投入するべき。	支えよう!かながわの森と水	男性 60代 川崎市	☆
4 都市住民の理解を深めるために県民参加のかたちをとるのはよいと思うが、ボランティアに依存するかのような森林整備はおかしい。仕事として成り立つよう、さらに工夫すべきである。	第27回県民フォーラム (藤沢市) H28. 1. 16	女性 60代 藤沢市	☆
5 これまでの取組で判明した課題に対して水源税を有効に活用して欲しい。水源環境の保全に関しては20年といわずロングスパンで進めてほしい。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	横浜市	
6 20年間の水源環境保全・再生対策が終了した後の対策を考えたい。今後10年間の取組を新たに展開していく必要がある。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	男性 50代 茅ヶ崎市	

コミュニケーションチーム 意見

①長期的に仕事として成立する林業と材木の健全な流通が、長期的な森林経営を担保する。②森林の資源循環が、森林をよくするだけでなく、土砂災害を軽減し水産業をも守っていく。③超過課税終了後のビジョンが示されていない。流通全体から水源環境税のあり方や長期ビジョンを見直す必要がある。

(2) 県民と現場の目線が不足していることを指摘する意見

記載内容	収集元	属性
1 県のどの部門の計画・実績評価の県民対象のシンポジウムが開催されているが、共通項として数字の羅列だけのまとめ方で、ポイントの解説がない。作成された資料も素人が読んでもおもしろくも何も感じられない。県民への県政への啓蒙を目的とするならもっと分かり易い解説が必須である。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	男性 70代 横浜市
2 地球温暖化問題に関係したボランティアを10年間やってきた。最近の異常気象、水不足の問題など世界的な問題が取り上げられてきた。日本国内で水資源の確保、地下水の問題など、身近な問題が現実化しつつある。今回の「県民フォーラム」も当然関連していると考えて参加したが、「実行5か年計画(素案)」を見ても、内容は難しく、単語も理解できず、「何が問題なのか」が判断できなかった。県民にもっとわかりやすい言葉と分析で説明してほしい。山北町森林組合の問題など、行政と何を検討しているのか、もっと具体的に報告してもらいたかった。	第27回県民フォーラム (藤沢市) H28. 1. 16	男性 60代 横浜市
3 現場状況が理解されていないと感じた。形だけは整っている。	支えよう！かながわの森と水	男性 70代 東京都
4 専門家による評価を提示してほしい。その上で県民目線の評価を加えるべき。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	男性 50代 厚木市
5 厚木市内の企業の環境活動の一環として、生物多様性、環境資源保護の観点から参加しました。全体的には税金の使い途の承認を得る場との印象が強く「自然環境保護の重要性」や「神奈川の自然を今度どのように創造してゆくか」「これからの活動により、どれだけ回復したか」という説明が不十分だと感じました。	第26回県民フォーラム (厚木市) H27. 10. 12	男性 60代 厚木市

コミュニケーションチーム 意見

①県の作成した資料(これまでの成果や骨子案など)を読んでも、期待してきた情報が得られない。②何が成果であるかよりも何が課題であるかを具体的に示した上で、どうしたらよいかを共に議論する場を期待しているのに、県の説明は抽象的で、何をどうしたいのかが伝わってこない。③逆に現場の状況をわかっている方々に対しては、現場は理解されていないという疎外感を与えている。

(3) 超過課税の有効活用を望む意見

記載内容	収集元	属性
1 水源環境保全税と一般財源を相互に有効に活用できる仕組みづくりが重要と思われます。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	男性 60代 横浜市

☆

コミュニケーションチーム 意見

各事業が有機的に連携し付加価値を最大化する仕組み作りの視点が欠けている。

(4) 優先順位の検証を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 5か年計画は体系的ともいえるが、総花的にならないように重要度をどのように付けているのか。目標数値（箇所数や予算ではなく）を効果測定できるように、リン濃度目標のような、最終的な効果、結果指標を設定する必要がある。効果の上がる施策に集中する、優先度を設定することも必要と思う。結果指標にはわかりやすい一人当たり良質水割合や節減（リサイクル等）率も必要と思う。この意味でモニタリングは良い、大いに結果を活かしてほしい。	第27回県民フォーラム（藤沢市） H28. 1. 16	男性 60代 寒川町

コミュニケーションチーム 意見

①水源環境税は財源が大きいだけに、総花的になりがちである。②モニタリングの結果から対策の重要度を見直し、効果的な対策を求めている。

(5) 広く源流部を訪れて河川の変化に敏感な県民や釣り人の情報や意見の活用を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 川の番人であるフィッシャーの意見を聞くシステムを作って欲しいです。	第20回県民フォーラム（相模原市） H25. 11. 9	60代 県外

コミュニケーションチーム 意見

①「釣り人よ、川の番人たれ」という呼びかけで開催されたフォーラムで、この意見と同じ提案が会場全体でも共有されていた。②釣り人は各地の河川を知っているし、河川の変化にも敏感であるので、河川モニタリングに釣り人を巻き込む意義は大きい。③しかし情報をどこに寄せたらよいかなど、釣り人の善意に応える仕組みはできていない。

(6) 財源の少ない他県の知恵に学ぶことを求める意見

記載内容	収集元	属性
1 神奈川県を取り組みは他に類をみない先進的な内容であるが財源の少ない地方の税対策の活用の仕方等、参考にすべきところがあるのではないかと思います。	第24回県民フォーラム（横浜市） H27. 3. 22	男性 60代 寒川町

コミュニケーションチーム 意見

①この5年間で国内の林業に対する意識も、林業を取り巻く環境も大きく変わっている。②他県でも森林税が導入されているが、神奈川県のような大金を投じられる県は他にない。③神奈川県は、財源の少ない他県の発想に学ぶ謙虚さが必要。

(7) 長期的な担い手対策を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 私たち、大人が真摯に取りくんでいく事は、もっとも大事な事であると思いますが、やはり子供たちに次世代教育としての担い手対策は重要ではないかと思いました。また、パネリストの方々の話の中で、税の公平性を考えると疑問も出る所ですが、考え方や感じ方を柔らかくする事も大事ではないかとも思いました。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	女性 40代 湯河原町

コミュニケーションチーム 意見

①水源環境税は平成38年度で終わってしまう。②将来のことを考えるならば、子どもへの教育は当然のことであり、次世代を担う人をどう育成するかが重要。③考え方や感じ方には柔軟性が必要。

※ その他

記載内容	収集元	属性
1 川は上流から下流、森から海まで水系一貫して管理する事が大切ですが、緑のダムを過大に評価することには疑問もある。	支えよう！かながわの森と水	男性 70代～ 横浜市

2. 森林整備

超過課税のあるうちに混交林化すべき森林の計画を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 大面積のスギ・ヒノキ人工林の間伐時、何か所にギャップを設け、野鳥の好む実のなる広葉樹（ヤマボウシ・ホウノキ・ナナカマド・イイギリなど）を、場合によっては客土や施肥を行って植栽するとよいと思う。大面積な人工林であると広葉樹の種子供給が埋土種子だけでは不十分と思う。水源環境保全税のあるうちに、混交林を早期に導くことのできる手立てを施しておくことが必要と考える。鳥散布による人工林内への広葉樹の拡大による混交林化が期待できると考える。	第27回県民フォーラム (藤沢市) H28. 1. 16	男性 30代 厚木市
2 ①今後営業メリットのない林業地については自然林に戻した方が保水性が向上するのではないのでしょうか？林業のスクラップ&ビルドが必要では？②私権の制限、放置民有地に対し、行政が介入することが今後必要では。（例、放置廃屋の撤去等の条例化）植林地→自然林に戻す③民地の（山林）の寄附の促進又は営業している山林の固定資産税を上げて寄附贈与することは可能か。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	男性 60代 藤沢市

☆

①現在の県が発表している資料は、森林の整備状況がABCDの区分で色分けされている。②しかし、ひとつひとつの現地の標高や土壌、齢級、成育状況などを知る手立てがない。③県民への説明にあたっては、標高・土壌・傾斜・齢級・混み具合などの条件も含めて具体的に伝えられないと、「整備した」だけで何がどうなったのかは伝わらない。

3. 林業

森林を維持する上で木材と森林資源の利用拡大が不可欠という意見

記載内容	収集元	属性	
1 間伐材の活用に関連して。娘夫婦は一昨年、木を活用した家を鎌倉市内に新築した時に、暖房として「木を燃やすストーブ」を選択した。しかし、周囲の目を気にして、昼間は使用していない。（苦情を受けたわけでもない。理由は”におい”）一般の方の理解（再生可能エネルギー、林業の活性化・拡大→気候変動の緩和等）を深める活動も必要ではないか。木材＝森林の重要性を小学生から気づかせる。林業の活性化は市場を作ることが不可欠	第24回県民フォーラム（横浜市） H27. 3. 22	男性 70代 横浜市	☆
2 水源環境を保全するためには、森林の管理伐採を適切に行うことや、シカ等の生物による被害を防ぐ事が非常に大切であることが分かりました。しかしながら水源環境税については期間を区切った税源であり、期間終了後の森林の管理状況が心配される所です。その意味で森林の保全という以上に、森林資源の活用を図ることが、重要な視点であると思います。森林資源の活用を活発化する上で林道整備や材木の活用は効果的であると思います。通常の公共施設の整備や維持管理において水源地特産の材木を使ったり、個人に対しても材木購入に補助することは、水源保全の上でも許容される税の使い方であると思います。今後こうした視点からの森林資源活用に向けた取組みをお願いいたします。	第26回県民フォーラム（厚木市） H27. 10. 12	10代、 50代 川崎市	☆
3 間伐材の利用がお金になるような各種の方策・施策を実施し、山林の保全に積極的に取り組む。森林組合、林業家が増えるような取組みをしてほしい。	第27回県民フォーラム（藤沢市） H28. 1. 16	未記入	☆
4 水源環境保全・再生のために、森林づくりが大切であり、とてもお金がかかるということがよくわかった。税金を使ってこのような事業をすることは必要と感じる。しかし、こうした森林づくりにかかわっている方々が経済的に厳しい状況であることも、ミニ講演を聞いてよくわかった。やはり木の価値が低いということに驚いた。どうして神奈川県の木は安いのに、大量のパルプをアジアから輸入しているのかよくわからない。森林の価値を上げるためにFSC認証を取るなど、もう少し保全とあわせて木材を利用してもらうためのPRも必要ではないか	第27回県民フォーラム（藤沢市） H28. 1. 16	男性 70代 横浜市	

5	材木の利用拡大について、今、テレビなどで木材を使った家具インテリアなどが紹介され、いいアイデアがたくさんある。ホームセンター等との連携なども考えたかどうか。和室、座卓いすにあったテーブル（焼板）のアイデアもおもしろく、是非欲しいと思った。いつまでも、まな板利用だけでは駄目である。イチョウのまな板は重いし、乾かすのも大変、若い人、老人には無理である。また、水源の森には関係ないかもしれないが、里山の小川の整備も必要ではないか。大磯磯の池付近の両岸は草が茫々、粗大ごみ捨て場になっているのは残念である。	第27回県民フォーラム (藤沢市) H28. 1. 16	男性 藤沢市
6	間伐・鹿狩りをする事で下草が増し、水源環境に良い影響は分かりました。間伐材、鹿の利用ルートを作ればさらに活動が進むのではないか。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	男性 70代 東京都

コミュニケーションチーム 意見

①森林資源の循環利用がなければ、森林を長期的に維持することはできない。 ②地域の木材を利用することは、木の価値を高めることに繋がる。 ③間伐材の利用拡大で森林の経済的な価値を向上させ、担い手が育つ仕組みをつくる必要がある。

4. 獣害対策

(1) 命を奪うための狩猟に対する不信感を表現した意見

記載内容	収集元	属性
1 草を守る為にはシカを殺すのは仕方ないかもしれないが、シカだって私たちと一緒に生きているので、殺すのではなく、他の方法を検討して欲しい。	第19回県民フォーラム (横浜市) H25. 8. 9	男性 10代 横浜市
2 木も利用できるなら、もっとシカのような命を奪ってしまうことへの利用を考えてほしい。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	女性 40代 山北町
3 ワイルドライフレンジャーの取組みについて。シカの捕獲を行う目的・どの位生息していて、どの位減っているのか、その効果が不明確であると感じました（それだけシカが多い中、捕獲数が少ないのであれば、意味があるのか）また、森林の保全といえど、命を奪う事は生物多様性と逆の方向に向かっている気もします。別の場所に住ませる、今後のシカの増加を防ぐ活動に力を入れた方が良いのではないのでしょうか。今の取組みがシカの「管理」、森の保全になっているとは思えない内容でした。	第26回県民フォーラム (厚木市) H27. 10. 12	男性 50代 茅ヶ崎市

コミュニケーションチーム 意見

①本来の狩猟とは異質の命を奪うための狩猟がなぜ必要になったのか。自然のバランスを崩したのは人間社会の側であり、問題が発生した背景や事情とともに、鹿には罪がないことを前提として説明しない県への不快感がある。②木を伐るだけで活用を伴わない林業に疑問を感じるのと同様に、命を奪うだけの狩猟を教えない猟師もいないし、教わりたい子どももいない。③対症療法で鹿を撃つだけでなく、担い手を目指す若者を引き付ける仕組みの議論が必要である。

(2) 獣害の現状をもっと知らせてほしいという意見

記載内容	収集元	属性
1 9月23日にワイルドライフフォーラムに参加した。若い被害防除対策専門員と同じく若手狩猟者の話が素晴らしかった。もっと彼らの発表の場を増やして欲しい。	支えよう！かながわの森と水	男性 70代～ 綾瀬市

コミュニケーションチーム 意見

①各地で同じような問題を抱えているにも関わらず、獣害を研究する若者の進路は閉ざされている。②一方で、獣害対策に詳しい若者の力を借りたい地域は多い。③彼らの発表の場を増やすことは、担い手と需要のマッチングになるだけでなく、地域に根差した対策が進むことが期待できる。

5. 生活排水対策

県民の生活排水問題への意識向上を進めてほしいという意見

記載内容	収集元	属性
1 森林整備、河川敷改善等も重要ですが、生活排水を如何に流入させないかが最重要であると考えます。又、洗剤とか自然分解する安全なものも市販されていますので、県民の啓発活動も必要と思います。	第16回県民フォーラム (相模原市) H24. 11. 24	
2 水については入り側だけで、出る側(排水下水)について啓発すべきでは。使う水の裏の捨てる水に関心を持たれば節水の呼びかけにも理解を得られると思う。	支えよう！かながわの森と水	不明 70代～ 横浜市
3 藤沢市では学校給食で使う食器を石けんで洗っている。神奈川県でも進めている、生活排水の問題を生活者に伝える術を多く持ってほしいと思う。	第27回県民フォーラム (藤沢市) H28. 1. 16	女性 40代 東京都 (横浜市出身)

コミュニケーションチーム 意見

①生活排水をきれいにすることは、今日から一人でも取り組むことができる。②しかし一人でやっても効果は上がらない。③どういう方法があるか、それがどうしたら広がるかは、まだ発信できていない。
--

※ その他

記載内容	収集元	属性
1 合併処理浄化槽の整備促進について、浄化槽支援エリアの拡大は生活排水処理率の向上により、 <u>水源中流域河川の水質改善すること</u> と、県内各市では調整区域の下水道整備事業を10年概成として進めている途中で、水源地としての合併処理・高度処理浄化槽をどのように支援し、エリア拡大するのか詳細を知りたいと思います。流域下水道計画・公共下水道計画の県市町村が進めている中で、どのように整合性を計り進めていくのかは、県土整備局と調整して頂きたい。清川村の人口3,000人は公共下水道をすでに整備している。津久井湖・相模湖へ流入域を同じく <u>高度処理浄化槽の整備促進を水源中流域へ支援拡大するのでしょうか。</u>	第26回県民フォーラム(厚木市) H27. 10. 12	男性 70代 二宮町

☆

6. 子どもへの教育

(1) 都市部の子どもへの水道水の仕組みを伝える授業に活用したいという意見

記載内容	収集元	属性
1 たまたま通りかかりましたが、4年生社会の授業に使えるような気がして、資料を頂きました。水源かんよう林についても扱っていかうと考えています。2部の資料とも増刷して配布しました。これから授業の中で使用していきたいと思っています。	森は水のふるさと	女性 40代 横浜市

コミュニケーションチーム 意見

①教育現場でのリーフレット活用は少しずつだが増えている。②小学校に限らず、大学、教員の教材としての活用も始まった。③そうしたニーズを拾うためにも、リーフレットの中に教育現場での活用を協力の旨の一文を入れた方がよい。

(2) 子どもたちに現地を見せて教えることを求める意見

記載内容	収集元	属性
1 本日の参加者の中でも約半数が水源環境保全税を知らなかった。もっとPRすべきだと思う。京浜地域の小学校は最近取組が盛んになってきたが、県下全域の小中学校で実習教科として積極的に取り組ませてほしい。森林整備などは、机上の学習より一日の現地実習(体験)が大事。	第16回県民フォーラム(相模原市) H24. 11. 24	/
2 解りやすい内容でした。県民にもっと知って欲しいです。又、会場(来場者)は年齢の高い方が多く、若い人、子どもにも参加、参画、出席してもらおう方法を考えて下さい。アウトリーチの必要性を感じました。例えば小学校に授業、中学校では水源へ遠足とか。私たち県民はこれからも「水源環境保全税」についてみまもっていきます。	第16回県民フォーラム(相模原市) H24. 11. 24	/
3 幼稚園でも小学校でも、より多くの授業をすべき。さらに、水源への課外授業などするべきだと思います。	第23回県民フォーラム(川崎市) H26. 11. 9	男性 30代 川崎市 幸区

4	県内小中学生は全員この水源林（寄）を訪れているのでしょうか。	森は水のふるさと	男性 60代 東京都
5	鶴岡林間学校プログラムにてやどりき水源林を森林インストラクターの方々にご協力頂き、子供の体験学習に参加しました。溪流はとても美しく水も澄みきってました。もっとたくさんの人に自分達の水源について実際に行ってみて知ってもらおうことで、これからも水源環境を保全していくようにして行って欲しい。	森は水のふるさと	男性 40代 鎌倉市

コミュニケーションチーム 意見

どの会場でフォーラムを行っても必ず頂戴するのは、都市部の子どもが森林や河川に親しむ機会を増やすことの大切さを訴えるご意見である。

(3) 高等教育への応用を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 第25回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムの資料である冊子（県民会議46ページ）を税負担に協力いただいた県民の皆様にする等、今後の水源環境保全・再生活動への更なる理解とご協力に向けた取組みを検討されてはいかがでしょうか。（①冊子のミニマム化 ②中学・高校・大学などにおける特別授業化 ③自治体や公益的会社とのコラボレーションによる全戸配布）	第25回県民フォーラム （横浜市） H27. 7. 26	女性 20代 座間市

コミュニケーションチーム 意見

①中学・高校・大学の教育現場で理解が広がることは有意義である。②高等教育現場では、印刷物だけで授業はできない。また授業の目的に沿った説明ができる人材も必要。③これらの条件が揃えば実施は可能。

※ その他

記載内容	収集元	属性
1 神奈川県も子供への教育にも力を入れて欲しいと思いました。	第25回県民フォーラム （横浜市） H27. 7. 26	男性 70代 川崎市
2 継続的な活動が求められるため小中高での教育の中に取り込むことは？	支えよう！かながわの森と水	男性 50代 東京都
3 県民や子供たちを対象にした水源森林ツアーや森林学習を企画・実行してほしい。今後の10年は森や川などを取り入れながら、感性を育てる環境教育にも取り組んでいきたい。	第25回県民フォーラム （横浜市） H27. 7. 26	男性 60代 横浜市

4	水を大切にしている取組について、小学校でも取組みしたり考えていけたらと思うので、小学生でも参加できるイベントをどんどん開いてください。	第20回県民フォーラム (相模原市) H25. 11. 9	女性 30代 横浜市
5	子どもの頃から身近な水を大切にしている教育？が必要と感じました。	森は水のふるさと	女性 70代～ 横浜市
6	教育・福祉と連携し、活動内容を広く知らしめてほしい。	第18回県民フォーラム (小田原市) H25. 5. 25	男性 40代 横浜市

7. 施策のPR

(1) パンフレットの配布方法について

	記載内容	収集元	属性
1	「詳しくはパンフレットを見てね！」と記載があるが、このリーフレットに併設して置いてあればなお良いと思います。私はこれを「水とエネルギー館」で入手しましたが、上記パンフレットは置いてなかったようだ。	支えよう！かながわの森と水	男性 70代～ 厚木市
2	たまたま出会ったので、パンフレットはどの様に配布されているのでしょうか？	森は水のふるさと	女性 70代～ 横浜市

☆

コミュニケーションチーム 意見

①パンフレットの配置についてはフォーラムチームと協力して改善する。②配布方法は次年度、コミュニケーションチームが中心となって発展させる。
--

(2) PRにわかりやすさを求める意見

	記載内容	収集元	属性
1	水源環境保全税は県民はまだよく理解していないのではないか。県のたよりなどで報告はされているが、イラストなどで分かりやすい活動事業の必要性を伝えるようにしたら良いかと思います。県民が理解できれば更に良い取り組みとなると思う。 神奈川の水源があたかも4つのダムで成り立っている様な資料が多いが、山梨など他県との協力している活動や取組があるはず。神奈川の水は上流の協力があってのもので。他県との協力事業はどの様な物があるのかまたどの位税金を拠出しているのですか。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	男性 60代 横浜市

☆

2	最新のデータとH19年からの推移を表で確認したい。水源環境保全についてSNSを広く活用して県民へのアピールをして欲しい。また映像を配信して欲しい。広報媒体を通じて、県民ボランティアを募ってはどうか。	支えよう！かながわの森と水	男性 30代 横浜市
3	広報活動—これまでも充分に行っていると思うが、まだ工夫の余地ありと思う。いかに一般市民に広く、わかりやすく、何より興味を持ってもらえるか。興味を持ってもらった上で、より幅広い参加がある。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	男性 40代 相模原市

コミュニケーションチーム 意見

①コミュニケーションチームでは、県の事業の説明をわかりやすく噛み砕いたリーフレットを制作してきた。②県民への説明のわかりやすさという意味では、そこで止まっているが、わかりやすい資料を作っていれば、この作業は必要ない。③点検結果報告書やフォーラムで配布した資料をいかにわかりやすくしていくかも今後の課題である。
--

(3) 水道水について啓発していくことを求める意見

記載内容	収集元	属性
1 水資源は県民一人一人の生活に直接かかわる大切なものです。日常利用している水道水がどのようにして造りだされているか、今後も大いに啓発していく必要を感じています	森は水のふるさと	男性 70代～ 海老名市
2 先日宮ヶ瀬ダム、道志川などを訪問したので、水と森のかかわりが良く理解出来たが、資料ではもう少し踏み込んだ方が良くと思う	支えよう！かながわの森と水	男性 60代 横須賀市

☆

コミュニケーションチーム 意見

水がどこから来るかは関心の高い問題である。

(4) フォーラムに県の理念や事業の具体的説明を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 税金を払っているのは理解しているが、利用状況、効果についてもっと県民にPRしても良いのではないか。方法を検討してほしい。水源ボランティアももっとPRすれば参加者も希望者も多く出るのではないか。多分知らない人が多いと思います。元気なシニア世代を活用して下さい。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	女性 50代 川崎市
2 生活水の汚染を防ぐ努力をした方が早いと思う。もっと県民に周知。誰も知らないから税を掛けると不満になるのでは？	第19回県民フォーラム (横浜市) H25. 8. 9	女性 50代 横浜市
3 水資源環境保全税のような目的税については多くの県民にその用途・効果等を広報する機会を各地で行うべきと思う。1年1回のフォーラムでは不十分。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	男性 60代 横浜市

コミュニケーションチーム 意見

①幅広い層への周知は、コミュニケーションチームにとっても大きな課題である。
 ②幅広い層と直接出会う方法として、もり・みずカフェにも参加している。③しかしそこで提供できる情報量には限界があり、具体的な説明まで踏み込むことは難しい。引き続きフォーラムチームと検討していきたい。

(5) フォーラムに広い分野からの参加者を求める意見

記載内容	収集元	属性
1 フォーラムの開催の告知について。今現在活動をされている方は多く出席されているようですが、興味はあるけれど情報が入ってくる団体に所属されていない方などへの告知はどうなのか。一般の方もですが、県職員になろうと考えている方など、県主催で行われた他のイベントなどでの告知も力を入れていくべきではないでしょうか。	第24回県民フォーラム (横浜市) H27. 3. 22	女性 20代 大和市
2 ご案内のチラシ等一般への周知度が足りないと感じた。折角のフォーラム、そして水源エリアでの開催です。より多くの参加を得るためにも、更に一步踏み込んでください。	第18回県民フォーラム (小田原市) H25. 5. 25	女性 60代 小田原市
3 フォーラムの開催周知の方法を再考して欲しい（もっと一般の住民に周知を）。	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	男性 40代 相模原市
4 7/26参加しました。もっと若い人達の参画が必要だと思いました。（みんな知り合いばかり？型だけ実施？）若い人達にも森や水の大切さを教えてあげてください。山梨県の取組みに神奈川県税を使っている事に驚きました。	支えよう！かながわの森と水	女性 50代 県内
5 関係者の方の熱意は伝わりましたが、関係者以外の方の参加が少ないことにさびしさを感じます。（特に若い人の参加がすくないかと・・・）継続的な活動になるようにより広報に力を入れた方がよいかと思いました。（一般の人にもより開かれた感じになれば）	第25回県民フォーラム (横浜市) H27. 7. 26	未記入

☆

コミュニケーションチーム 意見

周知度不足については県民に申し訳ない。フォーラムチームと協力し改善を図りたい。

※ その他

	記載内容	収集元	属性
1	もっと県民の水の無駄遣いを減らす為に、イベントや広告活動などをしたらいいと思います。あとキャラクターは1つでいいと思います。	森は水のふるさと	女性 10代 川崎市
2	横浜市水道局との共同企画もふやしてほしい。	第21回県民フォーラム (横浜市) H26. 2. 22	女性 50代 横浜市
3	今回初めて知りましたが、皆に知れ渡る為には、森林の見学ツアーとかがあっても良いと思いました。	第21回県民フォーラム (横浜市) H26. 2. 22	女性 30代 横浜市
4	配布していた水は、コンビニ等で販売してアピールするのはどうですか？	第21回県民フォーラム (横浜市) H26. 2. 22	女性 30代 伊勢原市

8. 災害

	記載内容	収集元	属性
1	神奈川県には宮ヶ瀬ダムの完成により、水不足は解消されたと理解していますが、大規模災害に対する備えは充分なのでしょうか。	支えよう！かながわの森と水	男性 70代～ 横浜市

9. 地域理解

	記載内容	収集元	属性
1	横浜方面の人達は「道志川」の事は知っているが「酒匂川」等の事を知らないなので、県東部へのアピールが必要かと思った。	第18回県民フォーラム (小田原市) H25. 5. 25	男性 60代 小田原市
2	県民に対してもっと取組みをアピールする必要があるのではないのでしょうか。一般の人の多くは知らない事ばかりだと思います。特に、下流域の県民には上流域で様々な取組みを行っている事をもっと知らせるべきだと思います。 【水】のありがたみが分かっていない人が多いと思う。	第22回県民フォーラム (小田原市) H26. 8. 2	男性 50代 川崎市
3	取水している地域との連携を一層活発にして、両者にとって望ましい環境を保って欲しい	支えよう！かながわの森と水	女性 50代 横浜市
4	静岡県小山町と連携して、上流域の環境整備に交流（市町村レベルの）をもっとしていったらと思います。	第22回県民フォーラム (小田原市) H26. 8. 2	男性 60代 小田原市

10. その他、参考意見

	記載内容	収集元	属性	
1	水資源の保全と考えるなら山梨県側の植林・下水道整備を重点的に行うべきではないか。こういう機会を設けていただいでよかったです。林業振興はもっと方法を考えるべきである(里山資本主義等)。	第24回県民フォーラム(横浜市) H27. 3. 22	男性 60代 川崎市	
2	県民へのアピールが必要。関心を引くためには税額のUPも必要。	第25回県民フォーラム(横浜市) H27. 7. 26	男性 40代 横浜市	
3	超過課税という特別な負担を県民に求める以上、事業の範囲は拡大すべきでない。	第25回県民フォーラム(横浜市) H27. 7. 26	男性 60代 藤沢市	
4	森林を整備するにはどのような、また再生の方向をどのように考えているか。河川の樹林化を止める方法は考えられているのか。	第25回県民フォーラム(横浜市) H27. 7. 26	男性 60代 横浜市	
5	1大径木の伐採を至急実施(CO2発生) 2. 林地残材の撤去3. 林道200mを変更(林道拡幅) 4. 相模原市のバイオマス発電計画を公表させてください。	森は水のふるさと	男性 70代～ 相模原市	
6	ここ早戸川に来る道路でも、ゴルフに行く時も杉林が痩せている。間伐が必要である。パソレットの元気な森にするために、林業に従事する人を養成又は就職できるようにするべき。公務員を増やし、ボランティア、バイトを募る。	第20回県民フォーラム(相模原市) H25. 11. 9	男性 60代 横浜市	
7	横浜市役所で水道の衛生業務を担当しています。飲料水の衛生確認の為に、水源環境のメンテナンスは欠かすことの出来ない問題です。水源環境保全税は知りませんでしたが、とても良い取組だと思います。市役所としても一層力を入れて、この問題に向き合っていきたいです。	第17回県民フォーラム(横浜市) H25. 3. 16	女性 20代 県内	
8	県民税からの負担も理解できますが、水源の保全を水道料金に上乗せした方が、平等だと感じます。「たくさん水を使うとたくさん保全にかかるお金も負担しなければならない」という方が納得できます。	支えよう！かながわの森と水	男性、女性 ～10代 30代 40代 相模原市	☆
9	県(神奈川)のみでなく、都や他の県から取っても良いのではないか。税の形ではなく、水道代として取っては反対されにくいのではないか。	第23回県民フォーラム(川崎市) H26. 11. 9	男性 20代 県外	☆

10	<p>水源の維持に必要なお金は、水道料金に上乗せしていただきたいと思います。県民税からの負担も理解はできますが、たくさん水を使った人は水源維持にもたくさんお金を払うというほうが公平だと考えます。</p>	<p>森は水のふるさと</p>	<p>男性、女性 ～10代、30代、40代 相模原市</p>
11	<p>税は反対されやすい、水道代に反映してはいかがか。</p>	<p>第23回県民フォーラム (川崎市) H26. 11. 9</p>	<p>男性 20代 県外</p>